

1917年の ドビュッシー ～最後のコンサート～

企画・制作・ピアノ
青柳いづみこ



©Hideo GOTO

「ヴァイオリンとピアノのためのソナタ」を
初演したカストン・プーレ氏。
ジェラルド・プーレ氏の実父。

1917年にドビュッシーが弾いた曲、聴いた音楽、校訂した作品。
ガストン・プーレが『ヴァイオリン・ソナタ』を初演してから100年の記念の年に、
ガストンの息子ジェラルドをゲストに迎え、ドビュッシー最後の音楽活動を辿ります。
ともに1938年生まれのジェラルド・プーレと高橋悠治の共演も見逃せない。

J.S.バッハ 『ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ第2番』 BWV1015 (1717-23) [プーレ・高橋]

ストラヴィンスキー 『ペトルーシュカ』 (1911/1947・作曲者による連弾版) [青柳・高橋]

*

ドビュッシー フランソワ・ヴィヨンの3つのバラード (1911) [盛田・青柳]

もう家がない子たちのクリスマス (1915) [盛田・青柳]

未完のオペラ『アッシャー家の崩壊』より「マデリーヌのアリア」 [盛田・青柳]

<トーク> 「ヴァイオリン・ソナタの成り立ちについて」 (ジェラルド・プーレ、青柳いづみこ)

ヴァイオリンとピアノのためのソナタ (1917) [プーレ・青柳]



ピアノ
高橋悠治
©Hideo GOTO



ヴァイオリン
ジェラルド・プーレ
©Mamoru Matsui



ソプラノ
盛田麻央

2017. 9/30 (土) 14:00 開演 [13:30 開場]

浜離宮朝日ホール 都営地下鉄大江戸線「築地市場」駅A2出口すぐ
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2 朝日新聞東京本社・新館2階

◎ 全席指定 一般 5,000円/学生 2,000円 ※ 学生券は東京コンサーツ (TEL 03-3200-9755) のみ取扱い

◎ お問い合わせ・チケット 東京コンサーツ 03-3200-9755 (平日10:00~18:00) <http://www.tokyo-concerts.co.jp>
朝日ホールチケットセンター 03-3267-9990 (月~土10:00~18:00)

◎ チケット取扱 東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650 <http://www.t-bunka.jp/ticket/>

助成: 公益財団法人 朝日新聞文化財団・大阪音楽大学研究助成公演

後援: 一般社団法人 全日本ピアノ指導者協会 (ピティナ) 制作協力: 東京コンサーツ

東京コンサーツホームページでご予約、
セブンイレブンでお支払いと
チケット受け取りができます。

曲目・出演者は変更になる場合があります。

1917年のドビュッシー ～最後のコンサート～

青柳いづみこ (あおやぎ いづみこ/ピアノ&トーク)

ピアニスト、文筆家。安川加壽子、ピエール・バルビゼの各氏に師事。フランス国立マルセイユ音楽院首席卒業、東京藝術大学大学院博士課程修了。武満徹・矢代秋雄・八村義夫作品を集めた『残酷なやさしさ』により、平成2年度文化庁芸術祭賞。執筆と演奏を両立させる稀な存在として注目を集め、10枚のCDが『レコード芸術』誌で特選盤となるほか、師安川加壽子の評伝『翼のはえた指』(白水ブックス)で第9回吉田秀和賞、祖父の評伝『青柳瑞穂の生涯』(平凡社ライブラリー)で第49回日本エッセイストクラブ賞、『6本指のゴルトベルク』(中公文庫)で第25回講談社エッセイ賞、CD『ロマンティック・ドビュッシー』(カメラータ)でミュージックペンクラブ音楽賞を受賞している。近著に『ショパン・コンクール』(中公新書)、『水の音楽』(平凡社ライブラリー)、CDに『大田黒元雄のピアノ』(コジマ録音)。2017年には『ピアニストたちの祝祭』(中公文庫)刊行予定。テレビ朝日『題名のない音楽会』、ラ・フォルジュルネ音楽祭にも出演。日本ショパン協会理事。日本ピアノ教育連盟評議員。ピティナ正会員。大阪音楽大学教授、神戸女学院大学講師。

オフィシャルHP <http://ondine-i.net>

公式Facebook <https://ja-jp.facebook.com/aoyagi.izumiko>

高橋悠治 (たかはし ゆうじ/ピアノ)

1938年東京に生まれる。柴田南雄、小倉朗、ヤニス・クセナキスに学ぶ。1963-66年フランス、ドイツで現代音楽のピアニストとして活動、1966-71年アメリカで演奏活動とコンピュータ音楽の研究。1972年に帰国し、74-76年武満徹らと共に作曲家グループ「トランソニック」を組織して季刊誌を編集。1978-85年「水牛楽団」で世界の抵抗歌をアレンジ・演奏、1980-87年月刊ミニコミ『水牛通信』発行。著書として平凡社から『高橋悠治/コレクション1970年代』『音の静寂静寂の音』、みすず書房から『きっかけの音楽』『カフカノート』などが刊行されている。 <http://www.suigu.com/yuji/>

ジェラルド・プーレ (Gérard POULET /ヴァイオリン)

指揮者とヴァイオリニストであったガストン・プーレの息子で、天才少年期を送る(父ガストンはドビュッシーのヴァイオリン・ソナタを作曲家自身のピアノで1917年に初演した事で知られる)。11歳でパリ国立音楽院に入学し、2年後に審査員全員一致の首席で卒業。18歳の時に、イタリアのジェノヴァでのパガニーニ・コンクールで優勝。巨匠ヘンリック・シェリングに師事。ヨーロッパ、アジア、アメリカ、アフリカの各地で有名オーケストラと共演。名高い音楽フェスティバルや定期公演に出演している。また、長年教授を務めたパリ国立高等音楽院を2003年に退官後、パリCNR市立音楽院とエコール・ノルマル音楽院や、東京藝術大学の客員・招聘教授を務めた。現在、昭和音楽大学教授。1995年にフランス芸術文化章、1999年に文化功労賞を受賞。日本弦楽指導者協会、及び日本フォーレ協会の名誉会員。日本在住。

www.gerard-poulet.com

盛田麻央 (もりた まお/ソプラノ)

国立音楽大学卒業、同大学院フランス歌曲コース修了。二期会オペラ研修所第52期マスタークラス修了。渡仏後、パリ・エコール・ノルマル音楽院首席、及びパリ国立高等音楽院修士課程を満場一致の最優秀の成績で卒業。第17回日仏声楽コンクール第1位。第12回東京音楽コンクール第2位、第33回飯塚新人音楽コンクール第2位など数々のコンクールで入賞。オペラでは2011年に東京二期会「ドン・ジョバンニ」ツェルリーナ役にて出演。その他、「フィガロの結婚」、「魔笛」、「ヘンゼルとグレーテル」などに出演。2014年には、調布市民オペラ「椿姫」タイトルロールで出演、2015年には、首都オペラ「トゥーランドット」リュウ役を演じる。コンサートでは、ベートーヴェン「第九」、モーツァルト「ハ短調ミサ」などのソリストを務める。二期会会員。

速報! 2017年9月発売予定!!



ストラヴィンスキー [作曲者による連弾版] 春の祭典、ペトルーシュカ 青柳いづみこ、高橋悠治 (ピアノ)

音楽史に残る“事件”となった『春の祭典』の初演。その1年前、ドビュッシーは評論家ルイ・ラロワの別荘で、ストラヴィンスキー自身とこの曲を連弾している。ドビュッシーが「美しい悪魔」と呼んだ『春の祭典』は、斬新な和声と野生のリズムで20世紀を代表する作品となった。1968年、作曲者の依頼で連弾版を初演したのは、新進指揮者のティルソン・トーマス。同年、タングルウッド音楽祭でトーマスと連弾を弾いた高橋悠治は、半世紀を経た共演者に青柳いづみこを指名した。ドビュッシーが「断固として傑作である」と讃えた『ペトルーシュカ』と共に、2017年6月、待望の新録音が実現する。

発売: 株式会社アールレゾナンス 販売: 株式会社キングインターナショナル <http://www.kinginternational.co.jp>



KAWAI

もっと伝えたい、感動を。

株式会社 河合楽器製作所 <http://www.kawai.co.jp>

青柳いづみこの本

モノ書きピアニストの面目躍如。演奏の現場から生まれた音楽エッセイ

ドビュッシー との散歩



ドビュッシーの演奏・解釈の第一人者が、偏愛するピアノ作品40余曲に寄せたエッセイ集。先進性、怪奇趣味から東洋幻想まで、軽やかな文体で綴る

中公文庫 ● 620円

ショパン・コンクール —— 最高峰の舞台を読み解く

ポーランドのワルシャワで五年に一度開催される、世界最高峰のピアノ・コンクール。モノ書きピアニストが見た、若者たちの憧れと現実とは



中公新書 ● 880円

中央公論新社 〒100-8152 東京都千代田区大手町1-7-1 www.chuko.co.jp 〇表示価格には税を含みません

受講生募集

青柳いづみこ フランス音楽専門講座

ドビュッシーの研究・演奏の第一人者が、作品の時代背景から具体的な奏法まで、わかりやすく指導致します。受講生はピアニスト、ピアノ教師、音大生、作曲家、音楽学者、趣味の方まで幅広く集っています。

- 年10回 ■ 前期5月/後期11月開講 ■ 毎月第2日曜日
- 午前クラス(10時~13時) 定員10名 ■ 午後クラス(13時~16時) 定員10名
- オーディションあり

NPO法人JML音楽研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原5丁目22-2
問◎電話 03-3323-0646 jml-irinopz@nyc.odn.ne.jp